

石クリ通信

9月号

半世紀ぶりの神威岬

院長 石川 悟

積丹半島の最西端の神威岬に行ったのは、初めて北海道を訪ねた大学一年生の時でした。札幌勤務をしていた兄に、綺麗な所だから一度丹く価値がある、と言われた。兄の車を借りて一人で札幌から積丹半島までドライブしました。駐車場から岬の突端まで、灌木と高山植物に囲まれた登山道のような上り下りの遊歩道を、両側に真つ青な海を眺め、痛めた膝をかばいながら歩いたのを覚えていてます。

今回久しぶりに訪れてまずビックリしたのは、観光客が極端に増えていることです。大きな駐車場なのに、空いている場所を探すのに苦労するくらい。外国人の観光客も多く、遊歩道は行く人、帰って来る人が列をなしていました。道路も整備され「女人禁制の門」と呼ばれる三分の一くらいの所までは舗装されて、車椅子でも行ける感じでした。

積丹ブルーと呼ばれる美しい海、それも二百七十度以上の眺望がある雄大な景色は、汗かくで往復四十分以上かけて眺めただけの価値はあり、だんだん訪れる人が増えたのだろ



四年ぶりの花火

看護助手

柴田 さち子

川尻海岸と十王駅前で、四年ぶりの花火大会がありました。子供達も浴衣を着て、楽しみに駅の方へ歩いて行きます。夜七時から花火大会、いよいよ時間になりました。今の家から見るとは初めてです。ワクワクしている、一発、二発、三発、と窓に花火が！感動です！他の花火大会と比べると規模は小さいですが、地元の花火は最高でした。四年間の休みも、今日の花火で取り戻しました。ありがとう！



北海道旅行

事務局長 石川 都

今年の夏休みは、娘夫婦と北海道へ出かけた。最初は米国メンフィスへの思い出旅行をするつもりで、半年前から長めの夏休みを入れていたが、運賃高騰や猛暑もあり、予定を変更して北海道ゆったり旅行にした。今回は札幌から小樽、白老、トマム、旭川と、お気に入りの星野リゾートを巡った。

北海道は四年前の旭川の学会にスタッフと出かけて以来だが、今回も予想通り猛暑の上、台風の間をぬけてヒヤヒヤ行程だった。それでも街中を抜けるときまにさだましの丘陵が続く、北海道育ちの友人のおおらかさが何となくわかった気がした。

今回私が行ったかった白老町のウポポイには、国立アイヌ民族博物館があり、アイヌ文化について映像や体験で総合的に学ぶことができる。ウポポイの全ての施設を回る余裕はなかったが、それでも先住民アイヌの文化や歴史や世界観をかなり知ることができた。衣服や祭具の独特なアイヌ文様や、ユーカラなどの口承文芸には、以前から惹かれていたが、厳しい自然の中で身の回りの森羅万象をカムイ(神)と崇め敬い、自然の恵みに感謝して生きる宗教観は、とても興味深かった。アイヌの地ポロト湖畔のうっそうとした森の中では、私も自然の一部であると改めて実感しつつ、大自然の中で己れに分を知り足るを知り、謙虚に穏やかに生きた先住民の民に思いを馳せた。

毎回旅をして感じるのは、旅とはいわゆる非日常の「ハレ」であり、旅する者にとっては日常の「ケ」の世界から離れてリフレッシュするアウエーであるが、行く先々でもそこをホームとしてケの場を地道に生きる人々がいる。人は誰もハレの旅を終えると、再びケの日常に戻り、また同じ暮らしを続ける。私もせめてこの旅で味わった新鮮な感動や経験を、帰ってからの生活に生かすことで、残された人生の日々をより豊かなものにしたいと思った。

親子でととのつてます

事務 森 多加子

うちの次男はサウナが大好きです。暇があるとすぐに『ととのつてくる』と出掛けて行きます。先日、息子に誘われて主人も一緒にサウナへ。よつぽど気持ちよかったのか、自分専用のサウナハットとマットを購入しました。今度は主人が息子を誘って出掛けて行きます。



かき氷

看護師 太田 小百合

今年も暑い夏ですね。暑い日はやっぱりかき氷が食べたいです。今回は房総に行つて食べました。見た目もかわいですが、味もブルーハワイ味で、さっぱりしておいしかったです。ただ一杯一六八〇円と高めで、「普通ののかき氷なら三杯は食べられるのに。」と、貧乏性の私が出てしまいました。



九月の散歩

看護師 澤田 彰子

初夏から十月頃まで早朝散歩をしています。九月の散歩は特に楽しんでいます。それはちょうど散歩の時間に日の出になる事です。水平線から朝日がさしてキラキラと輝く海を眺めながらの散歩は格別です。今年も残暑が厳しいという予報ですが、もう少しだけ早朝散歩を頑張りたいと思います。

頑張ってみました

事務 吉田 政子

窮屈な甚平を着ている孫、そして長い盆休み。時間はたっぷりある。「そうだ、甚平、作ろう。」なんだかのキヤッチコピーのようなフリースが頭に浮かんだので、久しぶりに使っていないミシンや三十年前に使った甚平の型紙を引っ張り出してみた。

手順を確認しながら作業を進めるも、一回確認したはずなのに、手順が頭に入らず、再度確認をする。良い脳トレになりそう(苦笑)それに、手元も見えづら

い。三十年前には、簡単に縫い上がったイメージだったのに、今回はなかなか進まない。

それでも、日に日に甚平の形になっていくものを見ながらにやにや、更に甚平姿の孫を想像してにやにやする私。そんな様子をみる家族からは、毎日楽しそうだねと一言と納得して、やっと納得いく甚平が出来上がりました。

